

# ベースボールカフェ

NO.14

2019年12月25日  
三好ベースボールアカデミー  
三好泰宏

TEL・FAX 011-897-3535  
携帯 090-59892587

E-mail: [my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp](mailto:my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp)



日本高野連の週500球の投球制限には異議がありません。これは回り道と思います。何故、新潟県高野連、プロの選手・筒香選手の発言を素直に聞き入れないのか。他府県の高野連も言いなりでは投手の養護は出来ません。勝敗へのこだわり過ぎは姑息と思います。

## ジnkス

北海道の高校野球のジnkスであります。「春のチャンピオンは夏勝てない」。今年もジnkスは生きていました。

昨年初めて秋を制覇した札幌大谷高校が神宮大会で優勝しました。その結果、選抜大会に北海道から2校選ばれました。ところが、選抜から帰ってきた大谷は春の大会で優勝してませんでした。ここ数年この傾向が続いています。ジnkスに取り上げるほどのことはないと思いますが、チーム力を維持することの難しさを感じます。

指導者は選手の気持ちをしっかり把握しなければなりません。

## 指導者

選手育成は指導者の指導能力が問われます。イチローのアマ指導者資格回復研修で張本発言が面白かった。「次元の高いものに研修とは何事だ」と息巻いていたが、これは指導資格を取るための研修会です。

イチローは全日程出席しましたが、“あっぱれ”です。是非、アマの指導者をやってもらい、本場のベースボールを伝授して欲しいと思います。第一希望は6大学野球の東大監督で新風を吹き込んでもらいたい。高校野球なら県立高校、北海道であれば、札幌南高校で、大リーグ方式の文武両道の指導を見てみたい。

## これからの野球

この度、W杯ラグビーを観戦して、野球の魅力を奪われるような気持ちにさせられた。

それは、スピード感です。世界で戦っているどのスポーツもパワー（筋力とスピード）を強く感じます。が、プロ野球は試合時間の長さもあり、もう少しスピーディーに出来ないかと思います。

張本の発言に、日本は大リーグの真似をしてはだめだという信念を曲げて、大リーグの投手ワンポイント制を廃止したことに賛成しました。日本は見送ったが、これは“あっぱれ”を差し上げたい。

いまだに日本では野球と呼んでいます。庭球はテニス、籠球はバスケットボールなどに従い、野球もベースボールと呼ぶことで更なる発展を望めそうだが…。

## ご挨拶

今年の話です。高校野球では投手の投球制限がありました。結論は週500球制限となりました。札幌大谷高校が神宮大会初出場、初優勝して注目を浴びました。プロ野球ではイチロー選手が指導者資格回復研修を受けました。今年もメジャー挑戦を横浜・筒香選手ら4人がしました。日本シリーズで4連敗した巨人軍監督がDH（指名打者）をセリーグも導入しなければパリーグに勝てないという発言をしました。これには反論がありました。これが…。

これらを中心に振り返ります。

## 投球制限

アメリカでは2014年にメジャーリーグ機構と米国野球連盟が各年代ごとに投球数の上限を示したガイドラインを出しました。これは選手に対してだけでなく、指導者や親なども対象にした啓蒙運動でもあります。

8歳以下ならば1日の最大投球数は50球まで。9歳から10歳は75球、11歳から12歳は85球、13歳から16歳は95球、17歳から18歳は105球、19歳から22歳は120球といった具合に細かく示されています。

注目することは、メジャーリーグ機構と米国野球連盟と一緒に考えていることでもあります。日本の野球は半世紀遅れていると言われてはいますが、見習わなければなりません。

